

平成29年

豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員会

5月18日

豊明市議会

豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員会  
会議録

平成29年5月18日

午後2時00分 開会

午後3時23分 閉会

1. 出席委員

|     |       |      |        |
|-----|-------|------|--------|
| 委員長 | 杉浦光男  | 副委員長 | 村山金敏   |
| 委員  | 富永秀一  | 委員   | 郷右近修   |
| 委員  | 清水義昭  | 委員   | 鵜飼貞雄   |
| 委員  | 蟹井智行  | 委員   | 後藤学    |
| 委員  | 宮本英彦  | 委員   | ふじえ真理子 |
| 委員  | 毛受明宏  | 委員   | 近藤郁子   |
| 委員  | 近藤千鶴  | 委員   | 早川直彦   |
| 委員  | 山盛さちえ | 委員   | 近藤善人   |
| 委員  | 月岡修一  | 委員   | 三浦桂司   |
| 委員  | 一色美智子 |      |        |

2. 欠席委員

委員 近藤ひろひで

3. 職務のため出席した議会事務局職員の職、氏名

|        |      |       |       |
|--------|------|-------|-------|
| 議会事務局長 | 石川晃二 | 議事課長  | 鈴木美智雄 |
| 議事担当係長 | 水野美樹 | 議事課主事 | 荻正幸   |

4. 説明のため出席した者の職、氏名

なし

5. 傍聴者

一般傍聴者 4名

午後2時開会

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） それでは、ただいまから豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員会を開会いたします。

改めまして、定刻に御出席いただきましてありがとうございます。

定足数に達しておりますので、ただいまから豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員会を開会いたします。

本日の傍聴について、申し合わせに従い15名以内とし、委員長において一般傍聴者の入室を許可します。

（一般傍聴者4名入室）

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 近藤ひろひで議員ですが、御連絡します。遅刻か間に合わない場合は欠席ということになりますが、ひとつよろしくお願ひいたします。

（議長の声あり）

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 月岡議長は公務ですので、この席にはおりません。

それでは、会議を開きます。

さきの特別委員会で、議員定数・報酬の増減におけるメリット、デメリットを取りまとめました。本日机上に資料ナンバー8として配付いたしましたので、御確認願ひます。

確認できたでしょうか。

それでは、お手元に配付いたしました議題に従い会議を進めます。

1、議員定数についてを議題といたします。

さきの特別委員会で、資料ナンバー1、議員定数・報酬検討の進め方について協議をいたしました。12月定例会に最終報告をするタイムスケジュールを、正副委員長で案を作成することになりました。

先日の協議会では、その案をもとに今後のスケジュールを協議いたしました。その中で、講演会のあり方について、意見の一致を見ませんでした。しかしながら、7月9日に広聴会を開催したときに、市民にアンケートを問うことで、その方向性を決定していくことになりました。

ここまでで何か意見はありますか。

（進行の声あり）

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） この進め方でよろしいですか。

(異議なしの声あり)

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） ありがとうございます。

本日は、豊明市のこれまでの経緯や他市の状況について、資料ナンバー2から資料ナンバー7までで学習し、市民参加の前に、議員定数・報酬における増減のメリット、デメリットを取りまとめ、論点整理などを行ってきましたので、今の段階で各委員の意見を出し合い、委員間で討議を行います。

くどいようですが、再度、今の私が申し上げたことを言いますと、資料ナンバー8に述べられていることは、一般的に考えて、一般論としてこういうことが考えられるということを取りまとめたものですので、各個人の意見ではありません。ですので、今までの僕たちが学習してきたこと、それからいろんな資料をもとに確認したこと等をもとにして、きょうは皆さんの考え、皆さん個人の考えを含めて、あるいは個人の考えを中心にしてと言ったほうがいいかもしれません、それを述べていただきたいというふうに思います。

その場合に、この特別委員会が閉じるまでにまだ数カ月ありますので、現在述べたことと最終のところ意見が違ったり、あるいは思いが違ったりすることは当然あり得ると思いますので、きょう述べられたことが後々まで尾を引いて、A委員はあのときこう言ったからどうのこうのと、そういうことがあっては、この場で今の段階におけるそれぞれの御意見をきちんと聞くことができませんので、そういうところは皆さん了解していただいて、きょうの今から臨みたいと思いますが、よろしいでしょうか。

(異議なしの声あり)

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 皆さん全会一致の御異議なしと認めます。

それでは、資料ナンバー8を見てください。

そこには、きょう行いますのは定数だけですので、裏のほうは関係なしに表だけ見ていただきますと、定数増の場合のメリット、デメリット、現状維持の場合のメリット、デメリット、定数減の場合のメリット、デメリットとありますが、これを全部一緒にしてしまいますと発言しにくいので、まず、定数増の場合のメリット、デメリットに関して個人的に意見のある方はですね。個人の意見、僕はこういうふうにやろうというふうに委員長自身は思っておりますが、皆さん、ちょっとしゃべりにくいですかね。発言しにくいですかね。

それで、自分がここで発言しようと思っておるところが、箇所がなければ、そこで発言していただければよろしいと。

近藤郁子委員。

○近藤郁子委員 私も確認をさせていただきたいと思ったんですけれども、前回にこのメリット、デメリットはこういうふうに出てきました。それを踏まえた上でということで、今、委員長がおっしゃったようなのは、また戻ってしまうような気がするんですけれども。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 戻っちゃうかな。

○近藤郁子委員 踏まえた上でというお話ではなかったでしょうか。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） ちょっと待ってくださいね。何か意見、ちょっと二、三聞いて。

どうぞ、鶴飼委員。

○鶴飼貞雄委員 僕もきょうは、メリット、デメリットを今までみんなで洗い出した結果を反映させて、自分がどういった意見を持っているのか、自分が増なのか維持なのか減なのか、そういったものをきょう話すのかなというふうに思って臨んでるんですが、違いましたでしょうか。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） ちょっと聞きますね。

郷右近委員。

○郷右近 修委員 鶴飼議員が今おっしゃったことも含めると、形として1つの例なんですけど、一人一人順番に意見を述べていくような格好になったりするのかな、進行の仕方がです。というふうな考えをちょっと持っています。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） わかりました。

それでは、そういう意見も、三方ちょっとよく似てますので、結論としては私も同じで述べたんですが、これ、全体にわたってしまうと、ちょっとあっち行ったりこっち行ったりすると思いましたので、少しずつ切っていこうと思いましたが、それでは、私が言ったことを訂正させていただいて、この場合の今までやった、増の場合のメリット、デメリットを、現状維持の場合のメリット、デメリット、定数減の場合のメリット、デメリット、こういうことを参考にしてというか、これをもとにして、どこからでもいいですので、自分の思いを発言していただくと。自分の個人の考え方で結構ですので、発言していただければありがたいと、こういうふうにしますが、よろしいですか。

（異議なしの声あり）

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 御意見のある人。

（いやいや、それじゃなくて、この進め方に関しての声あり）

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） じゃ、進め方に関しては御意見ありますか。いいですね。

（異議なしの声あり）

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 了解されたというふうに確認します。

郷右近委員。

○郷右近 修委員 何ならなんですけど、せっかくこうやって席順で座ってるので、順番に席順でずっと追いかけて、お一人お一人御意見をおっしゃっていくといいんじゃないかなと思います、いかがでしょうか。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） そういうことね。先頭で御意見を言っていただくということじゃなくて。

だから、もう確認しますよ。皆さん、1回は意見を述べてください、せっかくこの場です。よろしいですか。手の挙がらない人はこちらが指名することにします。お願いします。どなたか、先頭を切ってください。

（こっちからで順にの声あり）

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） いいの、それで。そうやって、流れの中で考えのまとまるという人もおるもんで、流れの中で考えがまとまるという人おりますけど、まず、先頭切ってお話をするという人、ありませんか。

（発言する者あり）

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） じゃ、順番に聞いていきますか。

（それでないとなかなか手が挙がらない人があるの声あり）

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） わかった。

またそれじゃ、ちょっと手が挙がりませんので、進め方を変えまして、順番に聞いていきます。

それじゃ、そちらからいきますよ、もう。

ふじえ委員。

○ふじえ真理子委員 定数に関して、増か維持か減らすかという中で言えば、私自身は減らす、定数減の方向で考えております。

数年前に定数削減の、20人から15人に削減をとという直接請求が出ました。そのとき、8,000人近い市民の方の署名がありました。現実には、まだまだ無関心の方のほうが多いというふうに思っております。議会そのものに対して、議員定数・報酬に対して強い関心を持つておられる方、もちろんいらっしゃるんですが、総数から言えば、まだまだ無関心の方のほうが多いと思っております。

これからの社会の流れ、人口が減っていく時代、社会になっていく上で、私自身は行政

もですけど、議会もふやすということは考えてません。そのためには、同時進行で、市民の方たちがいろいろな行政、また議会へ直接参加できる、そういう仕組みづくりも必要ですし、制度だけじゃなくて、市民の方がそういう参加してくることが必要だという意識を変わってく、促していくことも同時進行の上で、定数は20人よりは減らしていくべきだと現時点では考えております。

人数については……。

こんなに長くしゃべっていいんですか。

(発言する者あり)

○ふじえ真理子委員 じゃ、増か維持か減かと言え、減のほうです。

人数のほうは……。

(発言する者あり)

○ふじえ真理子委員 以上です。済みません。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長(杉浦光男議員) それじゃ、近藤善人委員。

○近藤善人委員 私が議員になったのが27年の前の、23年のときの選挙なんですけども、そのときの議会の評判というのは、余りいいことは聞こえてこなくて、批判的なことが多かったです。その23年に私、立候補したわけなんですけれども、そのときも直接請求というのがあって、たしか22を18にというようなことだったと思うんですけども、結論的に22が20人になって、実際に私も当選させてもらって、中に入ってみると、ちょっとこれほど思うようなことがたびたびありました。特に市長も改革の市長だったものですから、議会との対立も多くって、いろいろありました。

27年の選挙のときに、そんなことが市民の方にも伝わったんでしょうね。35人の方が立候補して、全国でも珍しいような選挙になったんですけども、ここで新しい方が8名入られて、これで2年たったわけですが、現状を見てみると、今すごくいい雰囲気で行っているんで、27年の初めのときは私も、削減をしたほうがいいんじゃないかと思ったんですけども、2年経過してみて、やっぱり20人全員が今、一丸となって議会改革に取り組んだりとか、非常にいい雰囲気なので、私は現状維持というのが今の気持ちです。

以上です。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長(杉浦光男議員) 早川委員。

○早川直彦委員 済みません、おくれてしまって。

私は、削減をする必要があると思ってます。理由はいろいろあるんですが、長くなりますので、今、3常任委員会という形でやってるじゃないですか。委員会の例えば構成を変えるとか、日進市が、予算と補正の特別委員会と、あとは常任委員会と別々にやっていま

すよね。委員会の構成、常任委員会も変えれば、今の人数よりは減らすことも可能になるんじゃないかというふうに思っております。やはり、これは多いほうがいいのか少ないの  
がいいかというのは、これは皆さんそれぞれ意見があるんですが、やはりできる人数まで  
はやっぱり減らしていったほうがいいのかというふうに思います。

じゃ、人数が何人かというのは、確かに前期のときに15人という定数のときには賛成し  
ましたが、どういう方法にするならば何人まで減らす、でも、二元代表制を維持できるか  
というのは、まだそこまで皆さんとの話し合いもしてないし、どういうふうな委員会の構  
成だったら話し合い、2人や3人の委員会で、それじゃ話し合いができるかといったら、  
これは私も無理だと思いますので、ある程度の人数がないとやっぱり意見の合意がとれな  
いと思いますので、そういう部分の話し合いで委員会運営ができるのであるならば、今の20  
人よりは減らすというふうに考えております。人数的なものはちょっと今は公表はできな  
いんですが。

以上です。

**○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員）** 私が議事の進行上で一番  
最初に申し上げておったと思うんですが、自分の意見を言うていただくときに、せっかく  
今まで財政状況だとか他市の状況等も勉強しましたので、それから豊明における経緯等も  
勉強したので、そういうところをちょっとつけ足して自分の考えを言うていただけると深  
まるかなというふうに思いますが、それは必ずしも必須ではありませんので、自分の考え  
を述べる上においての必須ではありませんが、今、私がそういうふうに思ったのは、早川  
委員が日進市がどうのこうのと言われましたので、あっ、そうかと思ひまして、そういう  
ことを思ったということではありますが、必須ということではありません。

山盛委員。

**○山盛さちえ委員** 私も、削減の気持ちが変わらずに、今も持っています。

今、委員長のほうから、これまでの資料をということでしたので、それをもとに少し述  
べさせていただきますと、資料ナンバーの3の、豊明市を含む24市、人口だとか面積等が  
豊明と割かし近いところというのを一覧表をつくっていただいて、それを見ますと、それ  
から、それをもとに我が会派が作りました追加資料もなんですが、そこを見ると、議員  
1人当たりの市民の人数、人口というのを見ると、豊明市は24市中、今現在17位で、3,434  
人が議員1人が抱える人口ということになっています。平均を見ると3,982人ということな  
ので、豊明は平均よりも議員が抱える人口は少ないということに、数字上はなります。こ  
ういうものをもとに割り返すと、豊明市の議会の人口は、平均レベルですると17人ぐら  
いでもよいということに計算上はなってきます。

資料の中に、東海市さんが10万人を超えてる自治体、それから、刈谷市さんも15万人ぐらいなので、10万人を超える自治体を少し除いて、豊明とより近いところだけで計算すると、18人ぐらいがよそと同じぐらいの議員の定数ということになるので、近隣との比較の中でいくと、17か18ぐらいがわかりやすい数字、妥当な数字ということになるのかもしれないです。ただ、だからといって、私がこの人数がいいというふうに考えているわけではないので、とりあえずデータをもとにすれば、そういうことになるということだけ申し上げておきたいと思います。

今まで議員定数削減の、市民のいろんな運動をされてる方たちのお考えというか、議会に対する印象からいくと、前期は正直ひど過ぎましたので、そこだけを捉えるのではなくても、発言しない議員がいるとか、議会で居眠りしてる議員が多いだとか、議員に対する市民の不信というか、機能されてないんじゃないかというような印象の方も多くて、何をやっているのかわからないとか、議員の活動が見えないという意味ですね。実際にやるかやってないかということではなくて、見えていないがために、少なくともいいんじゃないかというような御意見の方も少なからずいらっしゃったと思います。

そういうことから見ると、今期になって、一般質問をされる議員の数は非常にふえて、議長を除く全員が質問に立つことも間々ありますし、いろんな意味で議会の情報も市民に積極的にお伝えしたりだとか、今、議会報告会もより市民に近づこうということで努力しているわけですから、少しずつ市民が議会や議員に対して、その仕事ぶりや役割を理解しつつある、その過程にあるのではないかというふうに思いますので、以前、削減に強い思いを持っておられた方も、現状を知るとその考えが変わってくるかもしれないなど、そんなことも今考えつつ、市民とともに適正な人数を議会がしっかり議論して出していくということが重要だろうというふうに思っています。

以上です。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） それでは、順番はこういうふうに回りますね。こう行ったら、前におりましてこう行きますので。

清水委員。

○清水義昭委員 定数増、維持、減ということでいうと、今のところ、私の考えは維持という考えです。

実際、自分も議員になる前には、議会の中で何が起きているのかというのがやっぱり見えにくかった部分があって、議員にならさせてもらってから、中でやってることがよくわかる。恐らくなんですけど、昔と比べると、市民の方々もいろんな、本当に多様な方々がふえてきて、これ以上減らすと、正直言って多様な意見が拾えないんじゃないかというふ

うには思っています。

だからといって、増をするかって言われると、やっぱり増のデメリットというのものもあるわけですので、今のところ、他市なんかと比較しても、20人という数字が決して多過ぎるわけでもないというようなことも考えて、今のところは自分は維持ということです。それ以上の意見は今のところ、持ってません。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） ありがとうございます。  
郷右近委員。

○郷右近 修委員 議員定数に関しては、定数をふやすべきではないかなというふうに考えています。

大まかに言いまして、議会や議員の役割が、やはり住民の皆さん、有権者の皆さんの行政に対する意見だとか要望などを議会を通じて反映させると。特に正しく反映させることと、あと、その意見が採用されるかどうかは別にして、少数の意見でも漏らさず反映させるということが非常に重要なことというふうに思います。その見地に立って、現在の定数を考えると、ふやすべきではないかなというふうに考えるものです。

そのさらに裏づけのお話なんかはこれからまた議論の機会があると思うので、詳しくそのときにまた補足しながらお話ししようと思います。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 富永委員。

○富永秀一委員 ちょっと長くなるかもしれませんが、一応まとめてきたので、考えを。

議員になる前のもともとの考え方からお話しさせていただくと、日本というのは議員の数が、国際的に見ると、国レベルの話です、まだ議員になろうとする前の話ですから、議員の数としては少ないんですね。でも、定数をどんどん減らしていくというのを見て、なぜだろうと思っていました。

人口当たりの国会議員の数というのは、OECD34カ国中33位で、世界188カ国中168位なんですね。例えば人口が6,400万人のイギリスだと1,441人の国会議員がいたりということで、日本は議員の数が人口当たりで考えると少ないということです。

また、日本の巨大な官僚組織であったり内閣に対して国会の議員をどんどん減らしていくというのは、国民の声を国政に反映しにくくするだろうし、議員からの政策提案をしにくくすることであって、日本の国民はそれに対してなぜ文句を言わないのかなと。それどころか、定数削減を歓迎してる節があるのはおかしいことだと思っておりました。たまにとんでもない国会議員がいたりしても、それはそのモラルであって、その議員を選挙で選ばなければいいということで、一部の議員のために全体の議員を減らしていくという流れになっていくのはどうだろうというふうに思っていました。

議員に立候補するに当たってですけども、自分が立候補する際に、議会改革のマークをポスターだとか公報につけるかどうかというところで話し合いがありました。そのときも、議員の数を減らすということは当局に対する力を減らすことになるので、それが議会改革だとは思っていないという話をしました。そして、もし議員定数削減、しかも人数を明示しての削減に賛成することがマークをつける条件であるなら、それはつけられないという話をしました。最終的には、議員定数見直し自体には反対ではないということをつけることにはなりましたが、会報でも選挙公報でも街頭演説でも、一度も議員定数削減とは言っていない。議会の可視化を進めることこそが議会改革につながるということをずっと言っておりました。

議員になってからですが、真面目に議員の活動をやると想像以上に忙しいということを感じております。特に、2年間やって、建設消防委員会の6人というのはちょっと足りないというふうに感じておりました。

そして、今回の定数、報酬に関して講師選定をしてみて、いろんな専門家の御意見を調べると、ますますもともとの考え方が強化されていったということです。多くの専門家が、地方分権がどんどん進んでいって当局の権限が強まっている中、市民の声を市政に反映させたり政策提言をしていくためには一定の議員数は必要であり、合併したようなところは別として、ある程度定数削減が行われたところは、これ以上削減するのではなく、若干ふやしていくことも考えるべきだという意見が多く見られました。

現状の考え方です。江藤教授が言っておられる、委員会の人数は七、八人が適切であるというのは、実感としてそうだと思います。ですので、当市の場合、3常任委員会を保つのであれば21人、議長を別として22人あたりが適切だろうと思っております。

ただし、定数をふやすには、2つの条件を満たさなければ無理だと思っております。

1つは、今、地方政治の専門家の方々の間では、定数削減ではなくて、重要性が増している議会の役割をしっかりと果たしていくためには、場合によっては定数増を検討すべきだという考え方が主流になっていますが、そのことが市民の皆さんに伝わるかどうかという問題です。それが1つ。

もう一つは、議会が当局からの提案を適切なものに修正したり、適切でなければ拒否をしたり、当局のあり方を規定するような条例を制定したりだとか、あるいは積極的にどんどん政策提言をしていったりという、今、地方議会に期待されている役割を我々の議会が十分に果たして、しかも、その動きを市民の皆さんに伝える努力をして十分理解されるということが必要だろうと。そこまでいかないと、議員定数をふやすといってもなかなか、そうですねとは思ってもらえないのではないかと感じております。そうすると、それまで

の間は、今の定数で頑張ることが必要なのではないかなと思っております。

ただし、仲間の中には、定数削減を言っている人もいます。ですので、そうした声を一切聞かないということではありませんので、現状で言いますと、私の考え方としては、定数は15名から22名です。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 後藤委員。

○後藤 学委員 私は、皆さんも御承知のように、議員になる前に議員定数削減の陳情も行いましたし、それから、削減の直接請求の署名の代表者にもなりました。本当に減らさなきゃだめだというふうに思いましたし、実際に運動をしている中で、市民の方たちからの中に、非常に広くそういう考え方があるということ強く感じました。

議員になってみて、真面目にやると、真面目にやるとですけども、議員というのはそれなりに忙しいということもわかりますし、それからこの2年間の間で議員が幾らか変わってきてつつある。先ほど来出てましたように、一般質問する人の数が前と比べれば随分ふえたとか、そういった変化はありますけれども、基本的に私の現在の考え方、定数についての考え方は、議員になる前と変わっておりません。削減でいいというふうに考えております。

その理由ですけれども、まず、豊明市の財政、これからますます厳しくなっています。それで、当局側は物すごく、物すごくとって褒められるかどうかかわからんですが、行革の努力もしている。できるだけ少ない人数でできるだけ大きな仕事ができるようにということ而努力をしておりますけれども、そういった点から比べてみて、この議会は必要最小限のコストで最大限の効果が上げられるような改革ができていますか。富永議員の意見にもありましたが、そういうことについて市民の理解が得られるような状況であるかどうか、私は甚だ心もとないなというふうに思っております。

例えば、前に読んでいただいた学者の方の意見でも、委員会には1委員会7人ぐらいいたほうがいいと。豊明ぐらいの規模だと3委員会、そうすると、三七、二十一で議長を加えると22人というような、そういう話が出てくるわけですけども、必ずしも各委員会に7人いなくても、ほとんどほかの議員全てが傍聴しているわけですよ。それで、以前は委員外発言と言って、委員でなくても意見があれば言える、意見を聞いていこうというようなことがありましたが、そういったことはいつの間にかなくなってしまいました。やっぱりそういった努力も必要だろうと思いますし、それから、議会に傍聴に見えた市民の方からも意見を聞きますからどんどん来てくださいということで、委員会の場で市民の方から意見を聞くというような、そういう努力も必要かなと思います。議員の持っている総力、それから市民の持っている力、そういうものをもっと活用して、議会が活性化してくよう

な、そういう努力をきちんとすべきだろうと。

私は、定数削減というふうに先ほど言いましたが、まずは削減して、それでそういう努力をして、これだけ議会が頑張っているんだったらそれは定数はふやしてもいい、必要だというような市民の理解を得ることができたら、それからふやせばいいかなど。その理解に応じてふやしていくということでもいいかなというふうに思っています。

ということでありますけれども、定数の問題については、市民の意見をできるだけ聞きながら、ここでもよく議論をして決めていったらいいなというふうに思っておりますので、現時点での私の考えは今申し上げたとおりです。

以上です。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 宮本委員。

○宮本英彦委員 今の時点で定数について問われたら、私は終始一貫言っておるんですけど、具体的に15名でいいと思ってます。

要するに、その理由ですけれども、やはり今後の少子高齢化ということ踏まえれば、生産年齢人口もどんどんこれから減りますし、ということになると、税収入がふえるということはまずないだろうと。しかし、出るほうは、高齢化がさらに進展しますので、扶助費とかそういうところはどんどんふえると。あるいは、公共施設も、豊明の公共施設も非常に老朽化が進みますので、そういう点、費用もこれからかさむと。そういうことを考えると、本市の財政状況というのは、さらにさらにやはり厳しくなるだろうと。

こういうことを踏まえると、当局側もさらなる行財政改革をしなければそもそももたないとか、そういうような状況になるということ踏まえれば、逆に我々議会も、コスト削減なり、あるいは改革が必要、身を切る改革も必要だろうと。そういうようなことを踏まえれば、私は15名でもいいんじゃないかというふうに思ってます。

ただし、その前提は、今、3つある常任委員会を、先ほどもちょっと出てますけれど、2つの常任委員会に7人、7人、それから議長ということで、7名、7名の、議長で15名でいい。そのかわりもう一つ、予算、お金にかかわる議案、これは、議員が全員で構成する予算委員会、名称は何でもいいんですけど、予算委員会を常設して、そこで予算、決算、補正予算、お金にかかわるところはその予算委員会、仮称ですけど、そこで対応すればいいんじゃないかということで、技術的にはそういうことは可能だろうと。

私の今までの人生経験の中を踏まえれば、この2年間の経験に即して見れば、確かに仕事量は忙しくなって、大変忙しくなることはあれですけど、私から見ると、まだまだ十分対応可能だと。したがって、15にしても、全員が1.3倍の力を出せば十分対応可能だと。今の時点ではそんなことで、具体的に私、人数を出しましたけど、15程度でいいんじゃない

かと。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 続けていきます。

蟹井委員。

○蟹井智行委員 資料3の、人口、面積から豊明市の議員定数を見ると、そんなにほかと比べて違和感は感じませんし、先ほど後藤議員が言われたように、一度減らして、市民の理解が得られたらそのときにふやしていけばいいとおっしゃったけど、それはなかなか難しいことだろうと思うので、一度減らしたものをふやすというのは。私は、善人議員が言われたように、今、20人で一致協力して、いろんな改革にしてもやってるので、現状の20人がよいと思います。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） ありがとうございます。

鵜飼委員。

○鵜飼貞雄委員 私、今期から議員にならせていただきまして、前期はここにはいなかったもので、どういう状況かは余り把握はしていませんが、いろいろと聞くところによりますと、混乱していたということを知っております。実際、その状況が継続しているのであれば、私も本音を言うと、定数減でもいいのかなと思っておりました。しかし、この2年間を通して議員の活動をさせていただいて、この議会の、ここにもある構成メンバーを見させていただきますと、非常にバランスはとれているのではないかと。

個人的な意見で言うと、定数増はまずあり得ないと思っております。ですから、そうすると、残り、現状維持なのか定数減なのかという話になってくるんですが、定数に関しましては、これ、難しい話で、方程式がないんですよ。何掛ける何イコール何というわけじゃなくて。

なので、そうすると、何人が適正なのかというのは、当然皆様のいろんな意見を総合的に判断していつて見つけ出していけないといけないのではないかなと思うんですが、ここ20年ぐらい前からいろんな、全国各地で定数減の運動が活発化しております。これが、我々ども豊明市もこれで定数減にする、そうすると、また近隣市町も、豊明が減らしたからうちらももっと減らそうよと、それがずっと繰り返されるんじゃないのかな。いずれこれがまた、10年後、20年後ぐらいに、10人ぐらいでもいいんじゃないのというような議論をしている可能性も否定できないかなと私は個人的に思っておりますので。現状では現状維持、今の僕の考えでは現状維持でいいのかなと思っておりますが、やむなくいろいろと今後話を詰めていつて、定数減に転じることもあるかもしれない。それだけです。

以上です。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 近藤千鶴委員。

○近藤千鶴委員 今の段階での私の気持ちは、現状維持でいいと思っております。

それは、減にしてしまうと、3常任委員会の現状維持が難しいのではないかとということと、あと、多様性は減ってしまうのではないかと思います。

そして、身を切る改革も大切だと思うんですけど、それは、定数を減にして費用を出すのではなく、議会費の中をまだまだ見直せるところがあると思うので、そういうところを身を切る改革として議員からいろいろ提案して、削減できるところは削減ができる可能性のあることもあると思います。

定数が減ってしまうと、行政を監視する目も減り、議員提案も減る可能性が大いにありますので、そうすると、市民の皆様の声を行政につなげるという議員としての大きな役割が果たせなくなってしまうので、私は現状維持が、今の段階ではいいと思っております。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 一色委員。

○一色美智子委員 議員の定数は、行政改革や経費節減といった観点からのみ論じるのは危ないなという気がします。人口、面積に応じた住民の多様なニーズの意思を反映させることが大事ではないかなというふうに感じております。

1つの例でありますけども、議員定数は人口規模と面積でほぼ決まるという計算式を聞いたことがあります。それによりますと、豊明市は20.79で、私は現状維持のままでいいのではないかなと思います。

大幅な削減を行うということは、これは議会の自殺行為ではないかなというふうに感じております。これから本当に、多様な市民の皆様の意見を本当に的確に把握して、集約して、それを議会に反映していくことは、今後もっともっと必要になってくると思いますので、本当に現状維持でいいかなと思っております。

それと、議員の定員をふやせ、減らせ、それから現状維持というのは、これは三者三様の意見がありますので、今後、本当に市民の皆様の意見をお聞きしながら決めていきたいなというふうに思っております。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） ありがとうございます。

それじゃ、こういう流れで来てますので、月岡委員。

○月岡修一委員 私ですか。

公務でおくれてきまして、大変申しわけありません。

いろんな意見がありますが、私は28名の定数のときから、積極的にいろんな諸般の事業を見て定数削減に取り組んで、20名まで来ましたが、長い経験から見れば、やはり少なくとも3常任委員会という、そういう構成が継続されるならば、7人。したがって、21名が理想かなと。私はそう思っています。減らせばいいというメリットは全く考えており

ません。やはり市民のために全力を結集して、それは大前提でありますので、最低ライン21名が理想だろうとっております。

以上です。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） ありがとうございます。

じゃ、三浦委員。

○三浦桂司委員 私は、原則です。現状ですか、原則というより。現状維持がふさわしいと思いますが、統一地方選のときに、選挙のときに定数削減反対と言われましたが、それはそうは言っておりません。宮本議員言われたように、少子高齢化、人口減少が進んだ場合、また、学校統廃合、この必要性が出た場合、議会、議員として、何もしないわけにはいかないと、その場合は考えますと、こういう主張を終始一貫してまいりました。

そのときには、定数削減した場合、お金に色はついておりませんので、その費用は、今まで削減した、僕が議員になる前、26名から22名、22名から20名、そのお金はうやむやになってしまいましたので、その場合は、その金額の分を給付型奨学金などに充てると。それと、大府は、大府の議員さんからも言われますけども、これは正しいか正しくないかはありませんが、9万超で19名でやっている。また、日進は9万超で20人、東郷は今現状16名。

15名という数字は幾らなんでも減らし過ぎですが、そういう状況が来た場合、削減すべきだと。ですが、今現在は現状維持すべきだという考えです。

以上です。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） ありがとうございます。

近藤郁子委員。

○近藤郁子委員 私が議員になって以降、每期ごとに削減のいろんな話が出てきておりますので、随分といろいろ考えるところがあったんです。

前回のときは、それこそ8,000人に近い市民の意思があるということを表示されました。なので、私も自分の支援者、周辺の方、そのときで30人弱だったんですけども、お集まりいただいてお話を伺ったところ、削減の署名に署名した方、お断りになった方、減らしでもいいよという方、それからふやしてもいい方、本当にもうさまざまな意見を伺うことができました。

その中で、まず、何で削減なのかという理由の中でおっしゃっていたのは、市民は財政ということはさほど、そういうことをそのときはおっしゃいませんでした。ただ、削減の署名の中で、財政のこともということがあったので、そういうこともあるんだなというようなことでおっしゃったんですけども、まずもって、議員は何をするのかと。それで、

議会が、全員が一丸となって、今後、少子化に向けて財政が少ない行政になるのがわかっているならば、例えば企業誘致を議員が頑張ってみるとか、とにかく議員はそういったことにも動けば何ら問題はないと。逆にふやしてでも、生きた活動といたしますか、元気な活動をしてもらったら、それでいいんだというようなところが、最終的に皆さんの話を最後まで伺っていた中で、皆さんが最終的にはそういうふうなお話をされたのを、今現状もその中で私も頑張っていかななくてはいけないというふうに思って議員活動をしているんですけども、いろんな、例えば前回の議会の評判が悪かったということは、あくまでそのときの雰囲気、議員の削減をすとかしないとかということは、それは違うだろうと思っています。

ですから、市民が見て、この議員がいけないというふうに、働かん議員だなと思われたら、その方は必然的に淘汰されていくべきだというふうには思っていますので、そういったことも含めて、今のところ、私はこれ以上、それこそ多様化といたしますか、議員がちゃんと市民に認めていただける活動というものを一人一人ができるならば、立場は、それぞれスタンスは違いますが、できるならば、現状維持でいいのではないかとこのように思っています。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 毛受委員。

○毛受明宏委員 私は、2年前でしたっけ、議長が連合会とお話しして、防災関連に関してお話し合いをしたというときに、今でも言われるのが、やっぱりそんな配分は難しいと思いますけど、1区1人が欲しいなという話は皆さん聞いておられますので、27というのは難しいけど、希望はしたいところです。

しかしながら、やはり市内も東西南北ありまして、例えばこの中央学区でいっても、吉池の議員さんと阿野の議員さん、中島の議員さん、大久伝の議員さん、大久伝はないんですけど。あっ、いました。

（発言する者あり）

○毛受明宏委員 忘れてました、忘れてました。

やはり、この中でも出てくる問題って、もう中央学区にいただけで違うんですよ。時には長靴を履いて草むらを分けて入っていかなきゃいけないときもありますし、時には、こういう問題、これ、国の陳情の問題とかそういう話になると、新幹線に乗って東京に行かなきゃいけないしという問題もありますので、やはり議員が多ければ多いだけいいとは思いませんし、少なくてもいいとは思いません。なので、現状維持ということでお願いします。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） ありがとうございます。

(発言する者あり)

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 意見だけ言われておく。  
みんな言われるので。

○村山金敏委員 それじゃ、求められましたもんで。中立でいきたいなどは思っておりましたけど。

私も、これから市の財政だとかいろんなことを考えますと、このままではおれんなどという気はしております。その中で、一番問題になってくるのは少子高齢化、先ほど宮本委員も言われましたように、生産能力、非常に落ちると思っております。一般質問の中でもやっておりますけど、今、我々が結論を出しても、そういった状況は生まれてくるのではないかなと思っております。

ですから、長期で見ますと、先ほど、ちょっとぱくっちゃうんですけど、三浦議員が言われましたように、将来的にはそういった方向になるだろうということで、現在は、皆さん多くの方が言われるように、今の時点では現状維持でもいいかな、いいかなですよ。と思っております。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） ありがとうございます。

私は、一応委員長ということで直接会の進行に責任を持つておるということで、本当は言いたいんですけど、やめておきます。皆さんにきょうは聞いたということでありがとうございます。

私が一番最初に申し上げましたように、これは現時点における、今まで資料だとかここでの話し合いを通して、自分が今まで培ってきこう思ったという考えですので、これから閉じるまでにはまだ数カ月ありますので、意見が変わることもあり得るというふうに理解をしていただきたいと。そのことをもって、後追いのように、あのときA委員はああ言ったというようなことで非難をし合うというようなことのないようにということでお願いし、皆さんで確認したところでありますので、よろしく願いいたします。

一応、きょうの議員定数についての皆さんの御意見を聞くということはここで閉じます。  
続いて、議題2のその他に入ります。

この際、委員より何かありますか。

山盛委員。

○山盛さちえ委員 一番最初に委員長のほうから、7月9日の広聴会のところで市民の方から御意見を聞くというようなことがあったんですが、聞くというのはアンケートのことだけを指しているのか、それともそこで直接何か意見交換をしたり、あるいは広聴会の中で、こういうことについて皆さんから、今、議会がこういうことを話をしてるので意見を

聞きたいとか、積極的な働きかけというんですか、参加者に対して。そういったようなこともあわせてされるのか、どういうふうにするのかというのを話し合っておいたほうがいいんじゃないかなと思うんですが。もう時間が余りないので。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） わかりました。

それでは、私が理解しておることを申し上げますので、間違っておったら間違っただけで言ってください。それは私個人の意見じゃないですよ、今までのことで決まったことということとか、その方向性、それは広聴会ですので皆さんの意見を聞くということで、あとの細かい案については、十分まだ論議されてはおらないし、これからの問題としては残るかなと思います。ですが、原則としては、意見を皆さん、市民の方から聞く、そのためのアンケートをつくるという方向性は、この前の協議会等で決定されたというふうに思いますが、皆さんどうでしょうか。聞くということ。

鵜飼委員。

○鵜飼貞雄委員 アンケートもしかりなんですけど、広聴会を行う際に、何もこちらから、提案って言ったらおかしいんですけど、お題を出さないと、皆様から御意見を下さいと言っても、じゃ、何に対して言えばいいのかということも出てくると思うので、ちょうど今、特別委員会でこういった定数、報酬のことをやっているのであれば、それも1つの題目として、これについて皆様からの御意見、その広聴会の場で、アンケートもしかりですけども、そういうのはとってもいいのではないかなと私は思っております。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） ありがとうございます。

私が理解していることを申し上げたんですが、それ、私はちょっと狭く言ったかもしれませんが、アンケートはとる、この定数と報酬の特別委員会のために、この特別委員会ですので、調査項目があって枠ははまっておりますけど、ここまでというね。だから、そのことについてアンケートはとるという方向性は皆さんで確認されたと思います。

ですが、そのときに、意見交換のような形で、市民との接点というか、市民との交わりについて、どのぐらいの深さでやっていくのかというようなことについては、十分ここで決定されたということはまだない。けども、それは議会の報告の一環の中で行われるということですので、そこの辺は、私自身ではちょっと今ここで、今まで理解してる内容を僕はお答えしただけで、私の考えではありません。ですが、私の考えについて、間違っておったり、こうしたほうがいいという御意見があったらお伺いをしておきます。ここで決めていただいても結構です。

早川委員。

○早川直彦委員 午前中に正副委員長会が開催されて、7月9日日曜日の広く聴く会、広

聴会のどういうふうで進行してくかという話し合いが行われました。3会場に分かれて行くんですが、その中で、やっぱり来ていただいた人から順番に聞くほうですので、マイクを順番に回して聞いていこうというふうになりました。人数が多ければ、2つ、3つのグループに分かれて聞くほうということで、その中では、定数、報酬について、どうですかと投げかけることはなく、聞いていこうというところでまとまりました。

アンケートのほうは、広く聴く、広聴のほうのアンケートは正副委員長会でつくるんですが、定数、報酬については正副じゃありませんので、どういう内容のアンケートかはこちらのほうで決めていただきたいというふうに思っております。

以上が正副委員長会の内容です。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） といいますと、繰り返しますと、7月9日の広聴会はこの特別委員会の延長線上で、それが全て占めてしまうということはないということですね、大前提としては。

早川委員。

○早川直彦委員 今のこの定数・報酬特別委員会の中で、例えば30分であれば30分とか、何かアンケートだったら、最後5分ぐらい説明をしてアンケートを記入してくださいというふうであれば、正副委員長会でもそれをまた検討していくんですが、今のところは、来ていただいた方に全員に声を聞くようなというふうに進行してくというふうを考えております。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） きょうの正副委員長会で、この広聴会、それはまた議会報告会にも重なるわけですが、今、議運の委員長のほうからそういう言葉がありました、そういうことでよろしいですね、特別委員会として。

三浦委員。

○三浦桂司委員 アンケートの聞き方ですけれども、ちょっと雑な聞き方をすると、賛成、反対、現状維持という、本当にシンプルな聞き方をすれば、ほとんどの方が減らせということになりますので、ちょっとそここのところの設問の仕方をもう少し知恵を出していただきたいんですけども、市民の方は、現状は、大多数の方は知らない方がほとんどですので、そここのところはちょっとお願いしたいと……。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） わかりました。

今からそれを皆さんに、委員から何かありますかというふうに私が問いましたけども、その広聴会におけるアンケートについて、案づくりのために、流れとしてはもう一度言うと、案をつくって、ちょっと協議会で今言われたようなこと、アンケートをどうやって示して、単なる思いつきをとっとなんとアンケートに記入してもらっただけではアンケー

トになりませんので、極めて恣意的なものになってしまいますので、そうじゃなくて、もう少し客観性のあるアンケートになるといいかなとは思うわけですね。

アンケートの案をここでつくって、この特別委員会のメンバーでつくって、次に協議会を持って、そしてもう一回委員会でそれを確定して、委員会で決定して、そして7月9日に臨みたいというふうに流れとしては思っておりますし、前に皆さんで協議会のときに確認した、進め方としてもその方向になっております。アンケートするということは、単なるやみくもにアンケートするということじゃなくて、その前後があって、案をつくり、協議会でもんで、そして委員会で決定し、7月9日に示すということが、その前提に、潜在的にそういうことがあるわけですので、そのことを私が今のこの場に申し上げて、言うなれば、アンケートの案をつくる人を決めていただきたいと。それで、そこでできた案を協議会でもんでいただくと。そうすると、今皆さんが、一、二意見が出てきましたようなこと、どうやってその案を示すんだ、市民に理解してアンケートに参加していただくんだというような、その具現については、これから協議会なりで決めていったらいいかなと思います。

私の言ったこと、何かいぶかるところ、ありますか。そのままでいいですか。

富永委員。

○富永秀一委員 先ほど三浦委員がおっしゃったような、いわゆる雑な、大まかな質問だとよくないんじゃないかということのを補完するために、いわゆるメリットとデメリットをまとめたもの、これぐらいはとりあえず資料としてつけておくと、アンケートを書くに当たっても参考になるかなと思いますので、それを見ていただいた上で設問をするのであれば、ある程度シンプルな聞き方でもいいのかなというふうには思います。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 今、これからの進め方、アンケートの取り扱いについて一、二意見が出ておりますが、とりあえず案をつくる人、つくる委員を決めていただいて、そして、その案をもってここの協議会に臨みたいと思っておりますので、皆さん、私が言うように進めていってください。私の言ってるのは、恣意的に言っておるわけじゃなくて、前に決めた予定の潜在的な部分、隠れてる部分を申し上げておるということで。ありませんか。

鵜飼委員。

○鵜飼貞雄委員 では、私と富永委員2人でどうでしょうか。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 今の案をつくるのに、私、すなわち鵜飼委員と富永委員と出ましたが、皆さん御異議ありませんか。

（異議なしの声あり）

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 御異議なしと認めます。

この案も早急につくっていただいて、協議会を早くしないと、その後に委員会を持たないと7月9日に間に合いませんので、よろしく願いいたします。この後にちょっと協議会を持ちますので、その日程上の。委員会としてはここで閉じたい……。

（よろしいですかの声あり）

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 山盛委員。

○山盛さちえ委員 今、アンケートについては決まったんですが、アンケートをとるだけなのか、その場で直接市民の方との意見交換をするのかということについては決定を見ていないので、その点をお願いします。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） じゃ、これも詰めておきましょう。

三浦委員。

○三浦桂司委員 僕、ちょっと今まで出てませんでしたので、これ、3つの会場に分かれてやるんですよね。その代表も決まっているんですか。

（推進協の声あり）

○三浦桂司委員 推進協で。だから、その推進協の人のバランスもちょっと。あと、日にち、日程なんかをちょっとお聞きしたいんですけども。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） ごめんなさい、ここ、ちょっと委員会の場ですので、出てきた意見をまたこうやってやりますとちょっとあれですので、ここで一遍委員会を閉じて、あと、協議会をちょっと持たせていただくことはできませんか。

（発言する者あり）

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 鵜飼委員。

○鵜飼貞雄委員 この件に関して、私は、先ほどこちらから投げかけたほうがいいという話をさせてもらったんですが、先ほど早川委員からの報告によると、正副のほうで広聴会はフリーでやるというような発言がありましたよね。なので、とりあえず、ここの場では決めれないのかなという気はするんですが。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 富永委員。

○富永秀一委員 そのときの議論でいうと、とりあえず皆さんのできるだけ広範な意見を聞きたいので、マイクを回していきましようという形で、時間を制限するなりして意見を拾っていくんだけど、それでとりあえず一巡はするというところまでは決めて、じゃ、この定数、報酬について、改めて別で聞くのかという話も一応その中でも出てはいましたが、

それはやっぱりここで決めるべきだとは思ってます。

だから、とりあえず広範な意見を聞くということのためにマイクを回すということまでは決まりましたが、そこでそのことを、定数、報酬のことを聞くべきかどうかまで、その正副委員長会で決めるのはやっぱりちょっと違うと思ってます。ここで決めるべきだろうというふうに思うので。

(補足でお願いしますの声あり)

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 早川委員。

○早川直彦委員 アンケートするにしても、こうでこうでこういうふうって説明してからアンケートをしないと、ただお願いしますじゃわけがわからないし、皆さん先ほどの意見も、議会は変わりましたよということも、じゃ、どうやって説明するのといったら、多分資料に、例えば前期に比べたらこういうふうに質問の回数がふえたとか何かないと、変わったっていても何が変わったの、雰囲気的には変わったというのは伝わるけどという。何かやっぱり具体的な資料もつけて、じゃ、その中でどうなのというふうに聞かないといけないと思いますので、だから、そこはここで決めていただきたいんですが、ちょっと説明を加えるのか、アンケートの説明を加えて終わるのか、それとも、余った30分なり20分なり、それを意見を聞くのか、こちらで決めてください。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） それでは、鵜飼委員、いいですか。

○鵜飼貞雄委員 わかりました。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） この委員会を進行するために、ちょっと私のほうから聞きますが、今言ったことは、例えばアンケートを示したときに、もう少し説明をどうするのだとか、あるいはアンケートと離れて、広聴会するとき市民から出てきた、この報酬や定数に関する発言がされたときに、それをどうやって扱うのかというようなことについては、今ここで論議しても、すごい広がってっちゃうような気がします。アンケートについての案が出てくると、それをもとに、その具現のために協議会は絶対持たなくてはいけないので、そこで協議会でするのでこのメンバーでするので、そこで今言ったようなことは決めていただいたらいかがか。そして、その協議会の後にもう一回委員会を開いて、その協議会の内容を委員会で特定せないかんわけでしょう、決定というかね。だから、協議会で、今、ちょっといぶかるというか、どうだというというような意見が出ましたが、それは協議会でもんでいただくということはできませんか。

宮本委員。

○宮本英彦委員 その前に、そういう具体的なことは協議会でいいんですけど、その前に、

ここで確認していくことは、今度の7月の広聴会をどういう位置づけにするかというところだと思っております。

ここの前回の資料の日程表でいくと、7月の広聴会は定数、報酬ということで一定程度確認されておると。ですから、私は正副委員長会議の中で、マイクを全員に聞いて回すと、それは技術的なことでそれはそれでいいんですけど、広聴会そのものの位置づけは、定数、報酬ということを中心にした広聴会でやるべきだというふうで、私はそういうことで確認されておるものだという理解をしています。ですから、技術的なことは別ですよ、さっきのアンケートをどういうふうに説明するかそんなことじゃなくて、位置づけそのものはそういうふうかなと思っておるんですけど、違うんですかね。違う。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） ちょっと待ってください。

この前確認しました、私と副委員長で提案しました特別委員会の日程、それでちょっと月が間違っておったので皆さんにも直していただいたのを覚えてみえると思いますが、この中で、7月の広聴会の次の括弧の中に、定数・報酬とここに入ってますので、宮本議員が今指摘されたように、どのぐらいの重さでやるかということはまた決めていただかないけれども、定数と報酬をここで何らかの形でやるよということについては、これを決定した段階で確認されているなというふうに思います。これ、見ていただくと。

○近藤郁子委員 それも正副委員長さん方で確認作業させていただいたと思ったんですけども、そのときには、アンケートをとることは確定をしているけれども、それをダイレクトにテーマにするかどうかということは、まだ、テーマを持つかどうかということも決められていないし、それをテーマにするということは決まってないというふうにお答えをいただいて、その中で話し合ったことなんですけれども、どうだったですか。

委員長、いかがですか。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 早川委員。

○早川直彦委員 もともとは、去年の秋にやった議会報告会がああいう形でいけないということで、市民の意見を聞きましょう、市民の皆さんのところから始まってますので、定数、報酬というのは、アンケートとかというのが出ましたが、主でなくて、副的にやろうというのが主なんです。こちらの定数・報酬の特別委員会の中である程度の時間を割いてというんだったら、分科会、この委員会の中でなくて、アンケートと一緒に、そういうふうにやってほしいというふうになりゃ、それは進めますが、現状の、私たちが今まで準備したのは、定数、報酬じゃなくて、広く意見を聴くというふうに進めてますので、その辺は理解をお願いします。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） ちょっと待ってください。

うまく進んできたなと思ってましたが、今聞いていますと、十分お互いの共通理解というのをちょっとやっぱり欠けておったということもありますので、きょうこの委員会の場でするので、きちっともう一度、それはここで皆さんに確認すればいいとは思いますが、1時間以上やっていますので、暫時休憩。

(発言する者あり)

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 暫時休憩です。

午後3時9分休憩

午後3時21分再開

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 休憩を解き、再開をいたします。

最後のほうで少しもたつきまして申しわけありません。委員会としては、きょう用意しました議題、定数についての皆さんの御意見を聞くということと、それから、アンケートの案の作成者について決めていただくというのは、これは完成しましたので、委員会はこちらで一遍閉じて、次を協議会というふうにしたいと思いますが、この委員会を閉じることに御異議ありませんか。

後藤委員。

○後藤 学委員 7月の広聴会で、主たるテーマは定数、報酬で、アンケートもとるといような、そういう内容が確認されていますので、アンケートは2人、案を考えてくださる方が決まって、それでよしとして、あとの広聴会の場での話をどうするかという、どういうやり方をするかということはここで、委員会で決めておいたほうがいいんじゃないですか。それは、少なくとも基本的なことだけは。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） その間がちょっと、委員会の席でそんなことを言っておってはいけませんが、正直言ってちょっとぼけてる。だから、きょうの委員会としては閉じさせていただいて、次に協議会で、皆さんの本当に忌憚のない御意見を聞くという、聞いて決めるという、僕たち委員としては、協議会で決定したこと、これは決定ですのでいいと思いますので、そういうふうにしたいと思いますが、再度聞きます。もうだめだったら決めます。御異議ありませんか。

(異議なしの声あり)

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） それでは、委員会を閉じさせていただきます。

これできょうの特別委員会を終わります。

午後 3 時 2 3 分閉会